

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

| | | |
|---------------|--------------------|------------|
| 団 体 名 | 公益財団法人八尾市文化振興事業団 | |
| 施 設 名 | 八尾市文化会館（プリズムホール） | |
| 助 成 対 象 活 動 名 | 公演事業・人材養成事業・普及啓発事業 | |
| 内 定 額 (総 額) | 12,417 | (千円) |
| | 公 演 事 業 | 7,243 (千円) |
| | 人 材 養 成 事 業 | 1,040 (千円) |
| | 普 及 啓 発 事 業 | 4,134 (千円) |

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数(人) | |
|----|--|---|---|-------------|-------|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信事業1まちで魅了する舞台シリーズ×リズム@プリズムライブペインティング×ダンス×音楽が響きあう壮大な八尾の歴史スペクタクル「夢幻の舞望郷のうた」 | 令和6年2月24日 (土)・25日(日) | 出演:北村成美・森田かずよ・市民他 演出:北村成美・音楽:大森ヒデノリ | 目標値 | 582 |
| | | 八尾市文化会館 小ホール | | 実績値 | 404 |
| 2 | 地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信事業2まちで魅了する舞台シリーズ~まちの“名所”編~①古民家で楽しむ創作オペラコンサート「若き日の道鏡」(2回公演予定)②道鏡ゆかりの地で楽しむ落語と講談 | ①令和5年10月14日 (土) ②令和5年11月5日 (日) | ①出演:藤江圭子・榎貴志 他 ②出演:旭堂小南陵・露の眞・露の瑞他 | 目標値 | 110 |
| | | ①古民家再生プロジェクト 茶吉庵 ②喜楽亭 | | 実績値 | 115 |
| 3 | 地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信事業3やお祭高安能未来継承プロジェクト 高安薪能 | 令和5年10月9日 (月・祝) | 出演:山中雅志・原大・貞光訓義(全て重要無形文化財総合指定保持者)他 演目:能「紅葉狩」・仕舞「井筒」他 | 目標値 | 140 |
| | | 玉祖神社 | | 実績値 | 151 |
| 4 | 地域拠点契約事業1文学座公演「逃げろ!芥川」 | 令和5年11月8日 (水) | 出演:石川武・瀬戸口郁・若松泰弘他 作:畑澤聖悟・演出:西川信廣 他 | 目標値 | 265 |
| | | 八尾市文化会館 小ホール | | 実績値 | 221 |
| 5 | 地域拠点契約事業2 大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会楽しもう♪オーケストラ~授業で聴いたクラシックの名曲~ | 令和6年2月4日 (日) | 出演:沼尻竜典(指揮)・大阪フィルハーモニー交響楽団(管弦楽) スメタナ:交響詩「モルダウ」他 | 目標値 | 1,050 |
| | | 八尾市文化会館 大ホール | | 実績値 | 1,061 |
| 6 | 優れた芸術作品の鑑賞機会の拡充事業1 八尾で聴く、芸の深淵 坂東玉三郎お話と素踊り | 令和5年11月25日 (土) | 出演:坂東玉三郎 坂東玉三郎によるお話、地唄舞「雪」 | 目標値 | 859 |
| | | 八尾市文化会館 大ホール | | 実績値 | 829 |
| 7 | 優れた芸術作品の鑑賞機会の拡充事業2 山下洋輔×須川展也スペシャルデュオリサイタルーキミたちに届けたい このライブ、人生の必修科目 | 令和5年5月14日 (日) | 出演:山下洋輔(ピアノ)・須川展也(サクソフォン) Chiasma(キアズマ) 他 | 目標値 | 754 |
| | | 八尾市文化会館 大ホール | | 実績値 | 639 |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数(人) | |
|----|---|---|--|-------------|------------------------|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 地域の魅力の担い手次世代養成事業1 吹奏楽クリニック | 通年 (令和5年5月 ~令和6年3月) | 内容：八尾市内の学校吹奏部を対象に、プロの管楽器演奏者と市内楽器店にスタッフによる指導を行った。 | 目標値 | 合計参加数 1,550 (延べ) |
| | | 八尾市内各中学校等 | | 実績値 | 合計参加数 1,721 (延べ) |
| 2 | 地域の魅力の担い手次世代養成事業2 こども河内音頭講座 ①唄・楽器の講習会 ②踊り方講習会 | 通年 (令和5年4月16日 ~令和6年3月10日 の日曜日) | 内容：子どもを対象に地元の伝統芸能<河内音頭>の唄・楽器・踊りの講座を実施。 | 目標値 | ①20 ②20 延べ参加数 370 |
| | | 八尾市文化会館 練習室他 | | 実績値 | ① 17 ② 16 延べ 203 |
| 3 | 舞台技術の次世代養成事業 プリズムサマーワークショップステージテクニカルワークショップ | 令和5年8月12日 (土) ・13日(日) | 内容：中学生から22歳までを対象に舞台技術の基本の体験を実施。 | 目標値 | 8 |
| | | 八尾市文化会館 大ホール | | 実績値 | 5 |
| 4 | 地域とつながる大学連携事業 | 令和5年5月~8月 | 内容：芸術専攻の大学等からインターンシップとして学生を受け入れ、当館の事業に携わっていただいた。 | 目標値 | 合計 50 程度 (延べ) |
| | | 八尾市文化会館内 | | 実績値 | 合計 75 (延べ) |
| 5 | 生き生き文化サポーター養成事業 プリズム市民サポーター活動 | 通年 (令和5年5月 ~令和6年3月) | 内容：八尾市文化会館の芸術文化事業の運営や広報に参加する市民ボランティア組織を運営。 | 目標値 | 登録者数 28、 延べ 600 |
| | | 八尾市文化会館内他 | | 実績値 | 登録者数 28、 延べ 675 |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数(人) | |
|----|---|-------------------------|---|-------------|---------------------------------------|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | まちの魅力発見・発信事業1 ①第35回八尾市吹奏楽フェスティバル ②「吹奏楽のまち 八尾」の魅力発信！広がるプロジェクト | 令和5年7月16日 (日) | 出演：八尾市内学校吹奏楽部、一般バンド 全17団体 | 目標値 | ①吹奏楽フェスティバル2,800 (入場者2,050、演奏者750) |
| | | 八尾市文化会館 大ホール | | 実績値 | ①吹奏楽フェス2,683 (入場者2,054、演奏者629) |
| 2 | まちの魅力発見・発信事業2 聴かせます！魅せます！ 河内音頭やおフェスタ | 令和6年3月17日 (日) | 内容：八尾で活躍する河内音頭取り、当館で育成したこども河内音頭大使による河内音頭を実演。 | 目標値 | 入場者数950・出演参加者数70 |
| | | 八尾市文化会館 大ホール | | 実績値 | 入場者数305・出演参加者数100 |
| 3 | 子どもの素敵な劇場体験事業1 ①プリズムサマールワークショップ バックステージ・ツアー ②社会見学 ようこそ！プリズムホール | 令和5年8月13日 (日) | 内容：①は舞台機構を紹介。②は学校と日程調整がつかなかったため、実施をしなかった。 | 目標値 | ①30 ②4校 |
| | | 八尾市文化会館 大ホール | | 実績値 | ①31 ②0校 |
| 4 | 子どもの素敵な劇場体験事業2 能の世界に飛び込んでみよう！～八尾ゆかりの能体験～ | 令和5年7月28日 (金)・29日(土) | 内容：復元能《綱》の謡と大鼓体験と発表、能《土蜘蛛》の舞体験と一場面鑑賞・能楽楽器体験 他 | 目標値 | 124(各日AM:12PM:50) |
| | | 八尾市文化会館 展示室他 | | 実績値 | 82 (AM:64、PM:18) |

| | | | | | |
|----|---|---------------------------------------|---|-----|----------------------------------|
| 5 | 子どもの素敵な劇場体験事業 3 音とからだであそぶ なつのおとうた・わらべうた | 令和5年8月2日 (水) | 内容：乳幼児を対象にわらべうたを題材にしたうたや楽器、美術的な効果も組み入れたワークショップ | 目標値 | 親子8組 ×4コース 合計32組 |
| | | 八尾市文化会館 レセプションホール | | 実績値 | 親子16組 32名+19名 |
| 6 | 舞台の感動リーチ事業 芸術文化の課外授業①劇団文学座による群読劇ワークショップと読み聞かせ②大阪フィルハーモニー交響楽団による「聴いて楽しむクラシックの世界」③「リズム@プリズム」ダンスワークショップ ※ | 令和5年12月4日 (月) ～令和6年1月31日 (水) | ①と③は、応募がなかったため実施なし。②は新型コロナウイルス等の感染により一部中止。 | 目標値 | 1,000 |
| | | 八尾市内各小中学校 | | 実績値 | 1,300 |
| 7 | つながり交流リーチ事業 1 誰もがアートを楽しむ機会を創出するリーチ事業 | 令和5年10月21日 (土) ～11月22日(水) | 内容：①母子ホーム、②不登校・子ども食堂対象・③インクルーシブコンサート、④中学校夜間学級を訪問。 | 目標値 | 130(①35・ ②35・ ③20・ ④40) |
| | | 八尾市文化会館 レセプションホール 他 | | 実績値 | 223(①26・ ②78・③ 80・④39) |
| 8 | つながり交流リーチ事業 2 八尾市立病院ロビーコンサート | 令和6年3月24日 (日) | 出演：大阪フィル管楽器奏者 野津臣貴博(フルート)・三村哲子(ピアノ)・大正中学校吹奏楽部 | 目標値 | 200 |
| | | 八尾市立大正中学校 | | 実績値 | 92 |
| 9 | 舞台の感動普及事業 1 地域拠点契約事業 大阪フィル八尾演奏会プレ企画スペシャルトークライブ「沼尻竜典さんに聞いてみよう！クラシック音楽の不思議」 | 令和5年12月3日 (日) | 出演：沼尻竜典(大阪フィルハーモニー交響楽団指揮) | 目標値 | 60 |
| | | 八尾市文化会館 レセプションホール | | 実績値 | 40 |
| 10 | 舞台の感動普及事業 2 地域拠点契約事業 文学座ワークショップ | 令和5年7月1日 (土) ～8月19日(土) | 講師：文学座所属演出家 西川信廣・同俳優 日景温子・若松 泰弘・郡山冬果・高橋ひろし・松浦慎太郎 | 目標値 | 70(①15・ ②40、 ③15) |
| | | 八尾市文化会館 レセプションホール | | 実績値 | 55(①9・② 38・③8) |

| | | | | | |
|----|--|---------------------------------------|--|-----|---------------------------------|
| 11 | 交流を生み出すアートな にぎわい創出事業 プリ ズム・アート&シアター・ プロジェクト | 令和5年8月26日 (土) ～令和6年3月17日 (日) | 内容：共用スペースで芸術文化を鑑 賞。①・⑤DJナイト・②人形劇・③ マンドリンライブ・④歌声カフェ | 目標値 | 150 (①～ ⑤各30) |
| | | 八尾市文化会館 オープンコーナー | | 実績値 | 162(①6・② 57・③44・ ④29・⑤26) |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

| 自己評価 | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--------------------|---------------------------------------|------|--|--|------------------|--|--|--------------------|--|---------------------------------------|--------------------|
| <p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【1. 総括評価】 事業はミッション等に基づき適切に組み立てられ、当初の予定通り進められたと認める。</p> | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【2. ミッション・ビジョン・地域特性等に基づいた適切な事業の組み立て方】 認める。 組み立て方：基本理念とビジョンを3つのミッション（①「感動・意欲」②「つながり・交流」③「まちの魅力」）の達成によって実現することを目指した。ミッション達成に向けた事業群を、公演/人材養成/普及啓発の事業類型で組み立てた（図表参照）。地域特性として、隣接する大阪市の都市型の上演内容との差別化、大阪・関西万博の機運醸成と地元アイデンティティ醸成のための地域文化資源の活用、次代を担う子どもの育みを掲げ、取り組んだ。</p> | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【3. 予定通り進められたか】 認める ・公演事業はミッション①を達成すべく感動や意欲を生み出す本物の事業として、日本トップレベルや優れた水準の事業（番号 4, 5, 6, 7）、地域文化資源を魅力として活かした事業（1, 2, 3）、子どもの育ちを促進する事業（1, 5, 7）の計7事業を予定通り実施した。 ・人材養成事業はミッション②を達成すべく、生徒・学生・社会人を対象に劇場を活用した講座（番号 3, 4, 5）を、ミッション③を達成すべく吹奏楽や河内音頭の担い手を養成する事業（1, 2）を、計5事業実施した。 ・普及啓発事業はミッション①で、舞台芸術の魅力をもつ事業（番号 6, 9, 10）、ミッション②は子どもや芸術へのリーチが必要な人々への事業（3, 4, 5, 7, 8, 11）、ミッション③は地域の魅力を普及する事業（1, 2）として計11事業を実施した。一部、日程など学校側のニーズに合わず、番号3と6の事業のうちの3講座で応募無しとなった。ニーズを再度把握し、次年度に改善を講じる。以上、当初予定した事業の全23事業を実施した。</p> | <table border="1"> <thead> <tr> <th>基本理念 ビジョン</th> <th>あなたの人生がかがやく場所 人もまちも社会も生き生きとかがやいている</th> <th>事業類型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ミッション ① 感動・意欲 感動と生きる意欲を生み出す 本物の作品の創造と発信 </td> <td> i 地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信 ii 子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信 iii 日本トップレベルの芸術団体との連携 iv 優れた芸術作品の鑑賞機会の拡充 v 舞台の感動を普及・啓発 </td> <td> ・公演事業 ・普及啓発事業 </td> </tr> <tr> <td> ② つながり・交流 つながりと交流が生み出す 生き生き市民のまちづくり </td> <td> i 地域の次世代を養成 ii 地域とつながる大学との連携 iii 生き生き文化サポーター養成 iv 子どもの素敵な劇場体験の創出 v つながり・交流をリーチ（届ける） vi 交流を生み出すアートなにぎわいの創出 vii 芸術文化の基盤整備事業 </td> <td> ・人材養成事業 ・普及啓発事業 </td> </tr> <tr> <td> ③ まちの魅力 地域の魅力の発見・発信による シビック・プライドの醸成 </td> <td> i 地域の魅力の担い手を養成する ii まちの魅力の発見・発信をする </td> <td> ・人材養成事業 ・普及啓発事業 </td> </tr> </tbody> </table> | 基本理念 ビジョン | あなたの人生がかがやく場所 人もまちも社会も生き生きとかがやいている | 事業類型 | ミッション ① 感動・意欲 感動と生きる意欲を生み出す 本物の作品の創造と発信 | i 地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信 ii 子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信 iii 日本トップレベルの芸術団体との連携 iv 優れた芸術作品の鑑賞機会の拡充 v 舞台の感動を普及・啓発 | ・公演事業 ・普及啓発事業 | ② つながり・交流 つながりと交流が生み出す 生き生き市民のまちづくり | i 地域の次世代を養成 ii 地域とつながる大学との連携 iii 生き生き文化サポーター養成 iv 子どもの素敵な劇場体験の創出 v つながり・交流をリーチ（届ける） vi 交流を生み出すアートなにぎわいの創出 vii 芸術文化の基盤整備事業 | ・人材養成事業 ・普及啓発事業 | ③ まちの魅力 地域の魅力の発見・発信による シビック・プライドの醸成 | i 地域の魅力の担い手を養成する ii まちの魅力の発見・発信をする | ・人材養成事業 ・普及啓発事業 |
| 基本理念 ビジョン | あなたの人生がかがやく場所 人もまちも社会も生き生きとかがやいている | 事業類型 | | | | | | | | | | | |
| ミッション ① 感動・意欲 感動と生きる意欲を生み出す 本物の作品の創造と発信 | i 地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信 ii 子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信 iii 日本トップレベルの芸術団体との連携 iv 優れた芸術作品の鑑賞機会の拡充 v 舞台の感動を普及・啓発 | ・公演事業 ・普及啓発事業 | | | | | | | | | | | |
| ② つながり・交流 つながりと交流が生み出す 生き生き市民のまちづくり | i 地域の次世代を養成 ii 地域とつながる大学との連携 iii 生き生き文化サポーター養成 iv 子どもの素敵な劇場体験の創出 v つながり・交流をリーチ（届ける） vi 交流を生み出すアートなにぎわいの創出 vii 芸術文化の基盤整備事業 | ・人材養成事業 ・普及啓発事業 | | | | | | | | | | | |
| ③ まちの魅力 地域の魅力の発見・発信による シビック・プライドの醸成 | i 地域の魅力の担い手を養成する ii まちの魅力の発見・発信をする | ・人材養成事業 ・普及啓発事業 | | | | | | | | | | | |
| <p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【1. 総括評価】 文化的・社会的・経済的意義を認める。 【2. 文化的意義】 ミッション①と③は、主に文化的意義のある事業群であり、下記の通り認める。 事例1：歌舞伎分野では坂東玉三郎、能分野では重要無形文化財（総合指定）の能楽師、音楽分野では山下洋輔・須川展也、大阪フィルハーモニー交響楽団、演劇分野では文学座と、様々なジャンルで日本を代表する芸術家による事業を実施した。 事例2：地元能楽流派「高安流」にゆかりのある地元神社での公演や、八尾出身の歴史上の人物道鏡と縁の深い史跡<由義寺跡>をテーマにしたコンテンポラリーダンスと音楽の作品など地域と芸術を結びつける作品を上演した。事例1, 2とも公演に関連した普及啓発事業を企画実施し、市民の興味や理解の促進を図った。 エビデンス：ミッション①に該当する公演の集客率目標値 80%に対して実績は 80.9%で目標を達成することができた。アンケートより、ミッション③に該当する取り組みにおいてまち（八尾）の魅力を感じたと回答した人は、目標値 25%に対して実績は 41.4%と大いに達成することができた。分析：本物の芸術に触れる機会を創出し、地域文化の芸術水準を高め、更に地域への愛着も高まり、文化的意義を認める。 【3. 社会的意義】 ミッション②は、主に社会的意義を持つ事業群であり、下記の通り認める。 事例1：学校、不登校児スクール、母子ホーム、外国人コミュニティ、入院患者といった子どもや生きづらさを抱える人を対象に芸術文化を活かした取り組みを実施した。事例2：助成対象外事業の「あなたのアートを輝かせよう!!」として、館内のフリースペースで地域住民が気軽に自己表現する機会を創出し、障がい者、子育て中の方、福祉団体も発表した。エビデンス：事例1では、参加人数の目標 1,400 人に対して、1,782 人が参加した。事例2では、30 件の活動者が劇場で成果発表を行うことができた。分析：実績は、発表団体 32 団体（134 人）、鑑賞者 5,113 人と広がり、劇場の機能を活かして、様々な地域住民が体験や発表をすることができている。 【4. 経済的意義】 ある程度認めるが、向上の余地がある。 事例：アンケートに経済波及効果をはかる設問を設定しており、当館の活動により1年で推定2億8,100万円の経済効果をもたらしている。エビデンス：当館令和5年度に助成対象事業、対象外事業、貸館事業全体で、201,000人が来館している。統計結果からおおむね半数は当館への来館前後に経済活動を行っており、1人あたりの平均額はおよそ2,800円となっている。分析：年間来館人数はコロナ禍前（令和元年度 312,000人）のレベルに戻ってはならず、まだまだ向上の余地があり、今後劇場の活動により地域へさらなる経済効果をもたらしたい。</p> | | | | | | | | | | | | | |

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【1. 総括評価】概ね達成した。

公演、人材養成、普及啓発の全9指標のうち6件が達成、3件が未達成であったが、そのうち1件は感染症の影響によるものであった。昨年度と比較すると同じ達成割合となった。

指標の達成状況

| R5年度 | | R4年度 | |
|------|----|------|----|
| 数 | 割合 | 数 | 割合 |

| 指標総数 | 9 | 未達成 | 達成 | | 未達成 | |
|------|---|-----|----|-------|-----|-------|
| | | | 数 | 割合 | 数 | 割合 |
| | | | 6 | 66.7% | 6 | 66.7% |
| | | | 2 | 22.2% | 1 | 11.1% |
| | | | 1 | 11.1% | 2 | 22.2% |

【2. 公演事業】概ね達成した。全3指標のうち、2件が達成、1件が未達成のため、「概ね」とした。

目標①平均集客率（全体）80%→実績 80.9%で**達成**

目標②アンケート調査「八尾のまちはいいなあと思った」と感じる人 40%→実績 41.4%で**達成**

目標③18歳以下の平均集客率 35%→実績 16.6%で**未達成**（※感染症の影響による未達成）

【目標②について】

事例：公演2「①古民家で楽しむ創作オペラコンサート」は、市内の古民家の米蔵を舞台に八尾出身の出演者、過去に当館で上演したオリジナルオペラ公演からのプログラム、地元の注目レストランからのランチメニュー提供、ゆかりの地のまち歩きなど八尾づくしの内容で実施した。**エビデンス**：このアンケートの「八尾のまちはいいなあと思った」人の割合が 53.6%と目標を 10%以上上回る数字となった。

【目標③について】

事例1：公演1「リズム@プリズム」では、「舞台鑑賞デビュー」と銘打ち市内小中学生と保護者を招待し、94名の子どもたちが参加した。

事例2：公演2「大阪フィル」では、インフルエンザが流行し、大幅な人数減となる学校もあった（※感染症の影響による未達成）。**エビデンス**：公演1 29.5%、公演5 16.2%、公演7 9.2%で平均 16.6%の結果となった。

分析：事例2では、更にスキー合宿や「南大阪管打楽器ソロコンテスト」と日程が被り、鑑賞希望でも断念した例があったことを把握している。来場に影響を及ぼす他イベント等との日程調査が更に必要であると分析する。



古民家の米蔵で楽しむ八尾づくしのオペラコンサート

【3. 人材養成事業】概ね達成した。全3指標のうち、2件が達成、1件が未達成のため、「概ね」とした。

目標①吹奏楽と河内音頭の子ども向け育成事業の延べ参加人数 1,900人→実績 1,924人で**達成**

目標②インターンシップと舞台技術を体験するワークショップの受け入れ学校数 12校→実績 7校で**未達成**

目標③ボランティア組織「プリズム市民サポーター」の延べ参加人数 600人→実績 675人で**達成**

【目標③について】

事例：人材養成5「プリズム市民サポーター」に関しては、コロナ禍を経て、ボランティア同士の情報交換や共有する場が求められた。事業担当がLINEのグループ（以前より出欠確認等で活用）で交流することを提案し、活動の参加者から事業の感想や活動の様子などが活発に投稿されるようになった。**エビデンス**：結果サポーター主導により作成された「プリズムボラ広場レポート」が発行されるほど、情報交換が活発になり、参加者が増えた。

分析：活動の様子を知った他のサポーターの活動意欲が高まったことで、参加人数の増大につながったと分析する。また、未達成となった目標②に関しては、目標値の根拠とした令和4年度の実績が、休館後久しぶりの開催で高まっていたため、目標設定の根拠としても高いものとなったと分析する。

【4. 普及啓発事業】概ね達成した。全3指標のうち、2件が達成、1件が未達成のため、「概ね」とした。

目標①対象アンケート調査「八尾のまちはいいなあと思った」を選択する人 35%→実績 42.5%で**達成**

目標②子どもや生きづらさを抱える人を対象にした事業の参加人数 1,400人→実績 1,782人で**達成**

目標③交流や体験する機会を創出する事業の参加満足度 85%以上→実績 75.9%で**未達成**

【目標②について】

事例：今年度は、普及7「誰もがアートを楽しむ機会を創出するリーチ事業」として、A. 母子ホームでの音楽会、B. 不登校児スクール・子ども食堂参加者向けのコンサート、C. 障がい者の参加を積極的に促進するインクルーシブコンサート、D. 中学校夜間学級でのコンサートを実施した。Bはキャパの関係で親子での参加が難しいスクールでのアウトリーチ事業から、当館での開催に変更したことにより、親子での参加の機会を創出し、参加人数を増やすことが出来た。

エビデンス：事例の事業の参加目標人数 130名→実績 223名

分析：開催方法の再検討を行った結果、参加人数を増やすことが出来た。子どもの参加に関しても、感染症流行が収まるにつれて、少しずつ参加人数が増えてきており、「子どもや生きづらさを抱える人の心を豊かにし、創造性を育むために芸術文化を体験する人や機会を増やす」という目標は達成されたと分析する。



インクルーシブコンサートの様子

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【1. 総括評価】達成した。申請事業 23 事業のうち全事業で事業期間は当初の計画通り適切に実施できた。

【2. アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。】達成した。

事業実施に関しては、企画制作会議の中で進捗管理を行っている。事業実施前に、詳細な広報計画も含めた企画書と、特に公演事業については、「チケット販売管理表」を作成し、会議で逐次報告。共有することで、進捗と事業期間管理をした。

事例：公演 1「まちで魅了する舞台シリーズ×リズム@プリズム」は、当初体験ワークショップを 1 日（2 回開催）と本番までの稽古を実施する予定であった。振付・指導・出演の北村成美氏と事業担当とで企画を固めていく中で、「衣装を八尾の市民から集めた『たんすのこやし』で制作する」案が上がり、ワークショップの約半月前から受付をすることとなった。更にもその衣装を作る「お針子ボランティア」を募集し、また余った「たんすのこやし」を展示&リサイクル利用のために市民に引き取っていただく企画にまで発展した。これらは、通常の事業の実施内容に追加する形で業務が増えたが、全体として予定通りうまく進めることができた。



たくさんの「たんすのこやし」が集まった



お針子ボランティアの様子



「たんすのこやし展」の様子

エビデンス：ボランティアを活用し、担当が効率よく業務を進めたことにより、当初の計画（期間）通り進めることができた。派生した影響として、この「たんすのこやし展」が NHK の情報番組に採り上げられ、新聞等でも紹介された。また、服を提供してくれた方に、地域通貨（まちのコイン）をプレゼントすることで、地域の活性化にも寄与できた。**分析**：その他の事業についても、事務処理等も含めて遅滞することなく、ほぼすべての事業で計画通りに進んだため、達成したと分析する。

【3. 当初の計画（助成金交付要望書）から大きな変更が生じたもの】

事業期間に関しては、特に大きな変更が生じたものはない。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【1. 総括評価】達成した。申請事業全 23 事業中全事業で事業費は当初の計画通り適切に実施できた。

【2. アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。】達成した。

事業費に関しては、当初の予算立てと予算執行管理のもと、一定計画通り実施できた。事業予算は当初予算に対し、助成金獲得状況を加味した上で補正予算を編成し、確定している。予算執行管理と確認のため、半期・年末・年度末の年 3 回決算見込みを作成している。プロセスにおいては、制作会議において企画制作職員全員で協議し、上位決裁を受けている。

事例：普及 6 芸術文化の課外授業①劇団文学座による群読劇とワークショップ、③「リズム@プリズム」ダンスワークショップは、学校からの申込が無かったため、その分②大阪フィルハーモニー交響楽団による「聴いて楽しむ学ぶクラシックの世界」を規模拡大して実施した。コロナ収束後もインフルエンザ等感染症の拡大（※新型コロナウイルス等の感染により一部中止）もあり、大きな声を出す群読劇や人と人とが密になる可能性のあるダンスは避けられ、多くの人数で前を向いて鑑賞する②に希望が集中したので、予算の範囲内で、希望する学校・クラス数を調整し、全希望校を訪問することができた。**エビデンス**：結果、助成対象事業の全体の事業費は要望時の事業費に対し 91.60%で完了させることができた。**分析**：それらを踏まえ、経費面・内容面両方において、事業費に見合ったアウトプットであったと言える。事業費は、すべての事業において特別な理由のあるもの（下記の●）以外は、当初の設定予算から大きく違えることなく、また収支も問題なく推進できたため、達成したと評価する。

●その他特別な理由があり、計画と比較して乖離があったもの（予算 100 万円以上）については、

- 普及啓発 2：まちの魅力発見・発信事業 2 聴かせます！魅せます！河内音頭やおフェスタ
3 月 17 日実施のため、助成金の対象として申請していたものの請求や支払いが提出期限までに間に合わず計上できなかった。（外部発注の舞台スタッフ費、看板代など）
- 普及啓発 3：子どもの素敵な劇場体験事業 1 ①バックステージ・ツアー ②社会見学
②の社会見学に関して、学校に対して複数の候補日を提示したが、学校行事等とのバッティングにより、申込が無く、昨年度制作した動画を PR し代替えとしたため、その経費分が減額となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【1. 総括評価】認める。劇場・音楽堂等が地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったと下記の通り認める。

【2. 芸術監督等のキーパーソン存在】下記の通りキーパーソン存在による効果を認める。

プロパー職員の館長と舞台長を設置している。両者とも入団以来 30 年余、専門人材として地域の芸術文化振興を担ってきた。館長は芸術文化事業の質の担保と会館の運営責任を、舞台長は舞台技術水準の担保と舞台全般の責任を負う。また、実務面の進行管理を担う者として、プロパー職員の副舞台長・副館長も設置した。

【事例1】：事業の質の担保について。すべての事業（助成対象内外共）の企画は、若手を含め担当職員は誰でも提案できる。企画の成案化のプロセスで、ミッションや事業目的との妥当性、企画水準の引き上げ（錬磨）、対象者や目標設定などに関し協議・助言・決定について館長が統括する。その上で全体計画を成形し推進する。

【エビデンス1】：結果、助成対象外事業を含む主催事業 62 事業（名義共催を含み、広報等の事業は省く）の参加者数は目標 16,065 人に対し実績 26,206 人、助成対象事業の満足度は目標 80%に対し実績 84%となった。次ページに記載の地域色をふんだんに取り入れたオリジナル作品も数多く実施できた。

【事例2】：舞台技術水準の担保について。舞台長統括の下、舞台長本人および舞台事業課職員はすべての事業（助成対象内外共）について実施・助言・相談など行い、企画担当者と共に作品作りに関与する。

【エビデンス2】：助成対象事業では、公演 5, 6, 7 番、普及 1, 2 番において芸術家および企画担当者等と密に作品作りに関わり舞台監督を務めた。助成対象外事業の貸館事業では、利用者の要望を舞台演出などにより形にする。これに関し、利用者アンケートの満足度は 100%となっている。

【分析】：館長・舞台長のマネジメントのもと、副舞台長・副館長以下、専門職員が養成されている。各々に能力を発揮し、チームでミッションに合致した感動をもたらす芸術文化事業を企画・実施して、地域の文化拠点としての機能を発揮した。芸術文化事業の質の担保と舞台技術水準の担保をし、地域の文化拠点として優れた事業実施を行った。

【3. 専属団体等の存在】認める。

【事例】：主な芸術団体との連携状況は下図のとおりで、これら団体と緊密に連携をはかり事業を実施した。

| 芸術団体 | 提携内容 |
|---------------------------|------------------------|
| 大阪フィルハーモニー交響楽団 ★地域拠点契約団体 | 公演事業・普及事業の実施・吹奏楽部生徒指導等 |
| 文学座 ★地域拠点契約団体 | 公演事業・普及事業の実施 |
| Osaka Shion Wind Orcestra | 吹奏楽部生徒指導 |
| 高安未来継承事業推進協議会 | 新能・公演事業・普及事業の実施 |
| 八尾本場河内音頭連盟 | フェスティバル・普及事業の実施 |

【4. それらが実施した助成対象活動（計画）にどのように反映されたか】

提携している上記 5 団体とは、当館のミッション・ビジョンを共有したうえで、意見交換しながら事業のブラッシュアップをはかっている。またその内容を、館長と企画制作専門職員とで実施する企画制作会議で検討し、事業に反映させることができている。

【事例1】：「大阪フィル」「Osaka Shion」は、「吹奏楽のまち八尾」として進める市の施策及び当館ミッションに理解を示しており、地域の吹奏楽文化向上のため連携をとっている。当館では中学校吹奏楽顧問と密にやり取りし、現場の状況を把握している。そこから得た学校の様子やニーズを指導者となる楽団員に伝えながら、事業の主旨・目的に沿いつつ、人材養成 1「吹奏楽クリニック」にて、指導を行ってもらっている。

【エビデンス1】：連携先である両団体だからこそ、十分な内容調整を図り開催することができた。結果、受講生からは満足度 91.6%の高評価を得た。また、終了後行った学校とのヒアリング結果を両団体に伝え、次年度に向けての調整を進めることができている。

【事例2】：「高安能未来継承事業推進協議会」とは「高安能未来継承プロジェクト」として、地元由来する演目の復曲・復元・創作活動および次世代への普及活動とともに計画し、中期的な展開をイメージしながら各年度の事業を開催している。当館職員が協議会の総会等の会議に参加し、当館との連携事業を含めた協議会全体の事業を把握し、両者で連携を取りながら各年度の事業を実施している。

【エビデンス2】：当館実施の普及啓発 4「能の世界に飛び込んでみよう！」は単発の講座となるため、「地域ならではの伝統文化の継承」という面から子どもたちを育成する連続講座を協議会側で開催してもらうよう働きかけた。結果、令和 6 年度からの実施（当事業団との名義共催事業）が決まっており、うまく役割分担できた。

【分析】：他の事業においても連携先との良好な関係性が構築されており、事業に反映できていると分析する。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【1. 総括評価】認める。以下の内容により、地域の文化芸術の発展につながったと認める。

【2. 具体的な事例】

事例1：地域の魅力を普及・発信する芸術文化事業の企画・実施

- ①地元出身の歴史上の人物・道鏡と、地元で発掘された道鏡に関連する史跡<由義寺跡>を中心とした地域の歴史を素材としたコンテンポラリーダンスと音楽の作品を創作上演した（公演1）。
- ②地域の魅力あるスポットでの鑑賞事業を企画実施した（公演2）。
- ③八尾発祥の能楽流派<高安流>の普及を目的とし薪能公演、子ども向けの普及啓発事業を企画実施した（公演3、普及啓発4）。
- ④地域の伝統芸能である<河内音頭>の次世代の担い手養成を目的とする「こども河内音頭講座」や、地元音頭取りによる舞台芸術としての河内音頭公演「河内音頭やおフェスタ」を企画実施した（人材養成2、普及啓発2）。

エビデンス1：各事業の参加者アンケート結果
参加満足度 75.4～89.4%

- 事例1-①：[公演1]75.4%
(出演した市民100%、鑑賞者72.9%)
事例1-②：[公演2]89.4%
事例1-③：[公演3]85.7% [普及啓発4]86%
事例1-④：[人材養成2]76.9% [普及啓発2]75.7%



【公演1】八尾出身の歴史上の人物<道鏡>が
称徳天皇と八尾に築いたとされる由義寺の七重の塔を表現

分析1：満足度は高水準であった。今後の課題として、今回は[公演1]で試みた史跡や伝統芸能に現代的な感覚のアレンジにも取り組み、地域の魅力を伝える方法を広げていきたい。また、[人材養成2]において、中高生層の養成ができる仕組みを構築し、そのためにはまず若者の年代にマッチした共感を得られる歌詞や内容などを検討したいと考える。

事例2：地域の機関（法人・市民団体・個人）と連携した実演芸術や地域の芸術文化の振興への取り組み

エビデンス2：事業を実施するために連携した機関 合計103機関

助成対象事業：49機関（法人・団体・個人）

助成対象外事業：54機関（法人・団体・個人） ※前年度は[助成対象事業]のみで実績は55機関。

主な連携機関名…やおうえるかむコモンズ（地域の個人や団体の文化的ネットワーク団体）

八尾市観光ボランティアガイドの会、八尾市観光協会、八尾市立病院 等

分析2：助成対象事業では、前年度実績（55機関）から微減しているが同水準を維持した。助成対象外事業での連携機関のカウントは今年度からであり、比較数値はないが実績は54機関で、合計で地域の103の機関との連携があった。

事例3：地域の若い世代への鑑賞・体験機会の拡大への取り組み

- ①地元ゆかりの歴史上の人物と史跡をモチーフにしたダンスのオリジナル作品には、地域の子どもと保護者が一緒に鑑賞機会を持てるよう、市内の小中学生とその保護者限定で招待席を設けた。青少年が出演者としても参加し、プロのアーティストと創作に取り組んだ（公演1）。
- ②「教科書に出てくるクラシック」をテーマにした大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏会や若い世代への訴求を目指す室内楽コンサートを企画実施した（公演5・7）。
- ③子ども・青少年を対象にした人材養成・普及啓発事業を企画実施した（人材養成1～4、普及啓発3～8及び10・11）。

エビデンス3：事例事業に参加した25歳以下の若い世代の人数 延べ3,873人

事例3-①：[公演1]鑑賞者116人、出演者延べ95人

事例3-②：[公演5・7]鑑賞者227人

事例3-③：[人材養成1～4及び普及啓発3～8・10・11]延べ3,530人

分析3：令和4年度の延べ人数が3,213人で、昨年度よりかなり向上した。加えて参加回数も向上した。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【1. 総括評価】各観点から、事業を通じて組織活動が今後も概ね持続的に発展しうると認める。

【2. 事業運営の観点】認める。

予定した助成対象事業 23 事業は全て実施できた（一部事業内において学校との日程・実施方法が合わず応募不振の講座が 3 件あった）。地域文化資源の活用、次代を担う子どもの育みを掲げ、それらを重点とする取り組みの工夫が多くなされた。昨年度のリニューアル・オープンの際、館内にぎわい創出を目的としたカフェ・レストラン運営事業（助成対象外事業）を開始した。助成対象事業の実施の際には、このカフェを活用した連携企画を通年でいい、好評を得た。

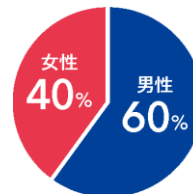
【3. 経営戦略の観点】概ね認める。

経営戦略に関しては計画当初に法人役員会等にて、経営・芸術文化振興の双方の観点から戦略課題を明らかにし、その取り組み結果について報告している。財務面において収益の柱である施設利用料収益はコロナ前と比較して小ホールや諸室については概ね改善されたが、大ホールの稼働がやや戻り切らない。経費は光熱費・物価の高騰による増で厳しい状況となった。一方多様な財源の確保として個人・地域団体や企業からの協賛金、文化庁および大阪府からの補助金の獲得など、ファンドレイジングにより収支の改善を図った。**【エビデンス】**：令和 5 年度決算見込（記述日現在）において、黒字化はできなかったものの、当初予算額から赤字額を約 63%の改善見込みとなっており、今後において持続可能性を認める。

【4. 人事戦略】認める。

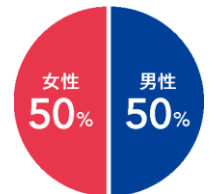
下記の人事戦略を遂行した。**【事例 1】** 経営の厳しさはあったが、正職員の採用（4 名）を実に 27 年ぶりに行った（27 年前を最後に、指定管理導入以降は契約職員を採用し期間満了後に正職員へ登用する方式を採っていた。R5 年に正職員としての採用を復活させた）。職員は人材育成基本方針に基づき、地域劇場として当館が必要とする「一専多能工・T 字型」の専門人材として育成している。**【事例 2】** ワークライフバランスやジェンダーバランスに配慮した労働環境を実現。**【エビデンス】** 職員が 4 名増え、変形労働時間制による勤務体制で平均有給取得日数を 6.8 日から 9.3 日に増加、超勤時間は 69%縮減し上限目標（20H/人/月）をクリア。女性の館長を筆頭に、令和 5 年度は幹部職と監督職に各 1 名女性を登用し男女比率が全国平均を大きく上回った。**【分析】** 労働環境整備と男女比率の均衡で組織力を向上し、年間計画事業を予定通り遂行した。

幹部職における
ジェンダーバランス



幹部職:女性2人(5人中)
事務局長、館長、舞台長
副館長、副舞台長

管理・監督職における
ジェンダーバランス



管理・監督職:
女性3人(6人中)
課長、チーフ

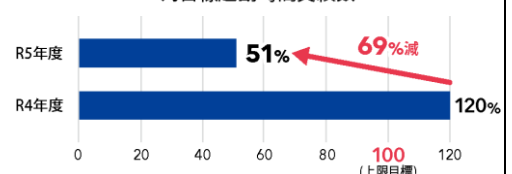
参考:男女比率全国平均 全国公立文化施設協会調査(R4 年度)
施設運営全体の責任者 男性:86.0%、女性:14.0%
芸術に関する責任者 男性:74.1%、女性:25.9%

【5. 各方面とのネットワーク】広範な団体との連携を認める。

施設運営全般では、全国公立文化施設協会、近畿支部会、大阪府文化施設連絡協議会、府内東部地区会議の 4 団体と行い、定期的な情報交換・協議で課題解決に役立っている。

芸術文化事業では、公立劇場、大学（近畿大学、相愛大学）、小・中学校（夜間中学校含む）・教育委員会、域内高校、医療・福祉施設（病院、母子施設、不登校スクール）、消防署、社寺、地域の文化的な活動団体（八尾市観光協会、地域 FM 局、市民活動ネットワーク支援センター）他多数と連携した。当館館長が近畿大学（舞台芸術専攻「アーツマネジメント論」）の教員を務め、実習で学生が劇場の事業を体験した。いずれの団体とも当館のミッションについて共有し継続的な協力関係を築き、持続的な発展につなげている。研究者から取材を受け、文化政策分野の書籍に当館の取り組みが掲載された。

対目標超勤時間実績数



【6. PDCA サイクルによる改善と機能強化】認める。

「現場のサイクル」と「組織のサイクル」二つのレベルのループで機能強化を推進している。

・「現場のサイクル」は、事業実施時（Do）に職員が収集するなどした情報・知見・課題を、最前線である企画制作会議で協議した後、案件レベルに応じて上位会議体に諮り（Check）、改善内容を各現場におろし反映する（Action）改善サイクルを導入している。企画制作会議ではこの内容を反映して次年度の助成事業を含む計画立案（Plan）を行っている。**【事例】** 学校側ニーズの再把握、河内音頭講座の中高学年への展開の改善策検討。

・「組織のサイクル」は、上述の収集した情報の中でも組織レベルの重要・広範な課題については幹部会議で諮り（Check）、課を超えた「プロジェクト」を結成して対応（Action）する仕組みである。対応結果についてはプロジェクトから幹部会議に報告し、翌年度の法人事業計画に反映（Plan）し、実行（Do）する。**【事例】** 対象外事業であるが翌年度に向けての貸館稼働率向上のためのプロジェクトなど複数プロジェクトの結成と推進。